

説教題：「**信仰による励まし**」

聖書箇所：テサロニケの信徒への手紙 I 3章1-13 (376頁)

説教者：秀島行雄牧師 招詞：讚美歌93-1-12 交読詩編：詩編119編121-128節 (138頁)

讚美歌：83/231 (久しく待ちにし) /236 (見張りの人よ) /78 (わが主よ、ここに集い) /27

「今週の聖句」〔…わたしたちは、あらゆる困難と苦難に直面しながらも、あなたがたの信仰によって励まされました。…今、わたしたちは生きていけると言えるからです。〕 (テサロニケ前書3：7-8)

「牧師室の窓」 「クリスマス迎える準備お花屋にポインセチアの真紅の装い」

「天気図の雪のマークのその下に礼拝告げる教会の鐘」

(1)皆様おはようございます。先週の日曜日11月30日からアドベント・待降節に入りました。

クリスマスを迎える準備の期間として、クリスマスから4つ前の日曜日から始まります。事前に準備する時期という基本的な考え方は、旧約聖書の時代からありました。神の救いを待ち望む、約束のメシヤが来る、救いの約束の実現を待ち望む時なのです。初代教会を経てキリスト教の時代になると、教会暦(教会の暦)・キリスト教の1年の開始は、アドベント第1主日に始まるとなりました。考えてみれば、至極当然のことです。物事が実現するためには事前準備が必要不可欠です。事前準備がしっかりとしていれば突然の出来事にも対処することが出来ます。事前準備を行なうことは人生を楽しむことに他なりません。併し、世の中には事前準備を疎かにして、約束が守られることなく、人生を無駄にしてしまう人が多いのも事実です。

アドベントとは、キリストの降誕を待つのみならず、神の国を待ち望む希望を与えられた一人であることを自覚する時なのであります。序で乍ら、英語のadventure(アドベンチャー)は冒険・冒険心と言う意味です。

本来の意味は、これから起きることに対して進み行くことを表わしています。アドベントの期間中の日曜日の主日礼拝ごとに1本ずつローソクの火を燈してゆき、4本のローソクにしてクリスマスを迎えます。

先月11月25日に天に召されましたO・Kさんのご葬儀が先週行なわれました。長い信仰生活を続けられこの待降節を、クリスマスを楽しみにしてこられたことと思います。Kさんのことを思いつつ、アドベントの期間を大切に参りましょう。

(2)扱て、本日の聖書箇所はテサロニケの信徒への手紙Iの第3章を読んで参りましょう。1節をお読みします。〔(3:1)そこで、もはや我慢できず、わたしたちだけがアテネに残ることにし、〕と書かれています。

パウロはテサロニケ教会の人々との再び会うことを願っていました。復活のイエスをメシア(油注がれた者)・救世主と信じたのは、テサロニケのギリシア人と婦人たちでありました。テサロニケ前書1章の記述を思い出してください。1章6節7節には〔(1:6)…ひどい苦しみの中で、聖霊による喜びをもって御言葉を受け入れ…主に倣う者となり、(1:7)…信者の模範となるに至ったのです。〕と書かれていました。パウロたちの伝道は「無からの出発」であり、「無から有をつくる」作業でありました。皆様も「無からの出発」・「無から有をつくる」ことを経験されたことがありますでしょうか。私は若い頃に、勤務先での営業推進で新規取引先開拓の仕事をしました。靴底を擦り減らして、ここぞと思う目当ての会社を何度も訪問し、その会社の役に立つ話題を考え、工夫して、その会社に提案書を持っていくのです。断られて、断られて、成果はなく、営業成績はゼロの連続です。数ヵ月するうちに体重が減ってきます。私は短歌や俳句が好きでしたので、気分転換で新聞に投稿した短歌や俳句が何回か載りました。偶然にもそれを見た先方の会社の方から連絡があり、社長さんにお会いすることが出来ました。加えて、他の会社も紹介して下さい、新規の取引先が次々に発生してきました。根気よく工夫を重ねれば、無から有が生じて道が開けてくるのです。会社の経営者の中には、

事業の話の他に、いつしか人生経験や仏教についての一人語りにお付き合いするようになりました。私の小学生の時に友人の何人かがお寺さんの子供でした。私は甘いお菓子欲しさにご住職の話聞き、知らず知らずのうちに、お釈迦様や大日如来様のことが耳の奥に残っていました。おぼろげながらの記憶も思わぬ時に役に立つものです。

(3)2節3節を見てみましょう。〔(3:2)わたしたちの兄弟で、キリストの福音のために働く神の協力者テモテをそちらに派遣しました。それは、あなたがたを励まして、信仰を強め、(3:3)このような苦難に遭っていて

も、だれ一人動揺することのないようにするためにした。わたしたちが苦難を受けるように定められていることは、あなたがた自身がよく知っています。〕第2節にはパウロが「テモテ」をテサロニケ教会に派遣したと書かれています。パウロは伝道旅行の途中、小アジア(現在のトルコ共和国)のリストラでテモテに会い弟子にしました。テモテの母エウニケはユダヤ教からキリスト教に改宗したユダヤ人で、父親はギリシア人でした。新約聖書のテモテへの手紙2章5節(391頁)には次の様に書かれています。〔テモテ後書(1:5)…あなたが抱いている純真な信仰を思い起こしています。その信仰は、まずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りましたが、それがあなたにも宿っていると、わたしは確信しています。〕パウロがテモテに全幅の信頼をしていることが示されています。只今、私は「全幅の信頼」と申しあげました。その事由がこの第2節に書かれています。「わたしたちの兄弟で、キリストの福音のために働く神の協力者」と書かれています。血縁の兄弟姉妹ではなくても、信仰による兄弟姉妹なのです。

そして、人間は何のために生きるのでしょうか。その様なことは若い時には殆ど考えることはないかも知れません。年齢が進んでからも考えることがないかも知れません。併し大切なことです。教会の礼拝で過ごす時間は、1週間のうちの、ほんの僅かな時間です。礼拝で、「人間は何のために生きるのか」を考えることはその人の心を豊かにして行きます。その積み重ねが1か月に4回、1年で52回に積み重なり知らず知らずのうちに心がほぐされて、耕されて参ります。私たちはこの世界では名もなき一人ですが、パウロやテモテの様に「キリストの福音のために働く神の協力者」として人生を豊かに歩むことが許されているのです。

たとえこの身が「苦難に遭って」いても「励まされている存在」と理解して、新たな人生の一步を踏み出すことが出来るのです。

5節にはパウロがテサロニケの教会の人々のことを心配してテモテを派遣したことが記されています。この5節は現代に生きている私たちのことを心配している言葉に聞こえてくるように思われます。耳を澄ませて聴いてみましょう。〔(3:5)そこで、わたしも、もはやじっとしていられなくなって、誘惑する者があなたがたを惑わし、わたしたちの労苦が無駄になってしまうのではないかと心配から、あなたがたの信仰の様子を知るために、テモテを派遣したのです。〕旧約聖書創世記第3章で誘惑の言葉に負けてしまったアダムとエバが神から身を隠すようになります。隠れているアダムとエバに神は言葉を掛けます。「どこにいるのか」と問い掛けられた時に、私たちは答えられるでしょうか。テモテはテサロニケ教会に派遣されて、人々に会い、為すべき務めを果たし、パウロのもとに帰り報告をしました。何を報告したのでしょうか。5節には「あなたがたの信仰と愛について、うれしい知らせを伝えてくれました」と書かれています。翻って、私たちの日常の行動については、神から派遣された聖霊は神に対してどの様に報告しますでしょうか。これは私たちに与えられた課題と言えましょう。

(4)続いて、7節8節を見てみましょう。〔(3:7)それで、兄弟たち、わたしたちは、あらゆる困難と苦難に直面しながらも、あなたがたの信仰によって励まされました。(3:8)あなたがたが主にしっかりと結ばれているなら、今、わたしたちは生きていると言えるからです。〕この箇所をどの様に読むかが大切です。読み飛ばしては勿体ない、読み飛ばしてはならない箇所であります。

「あらゆる困難と苦難に直面」するとはどのような状態なのでしょう。か。「困難や苦難」の状況は人それぞれに異なるでしょう。2千年前のパウロのそれと現代に生きる私たちのそれとは異なるでしょう。併し、私たちも「あらゆる困難と苦難に直面」し「困まれて」いるのです。抜け出すことも打ち破ることも難しい状況の中で、パウロは「あなたがたの信仰によって励ま…」されました。これは外部からの物理的な変化ではなく、「信仰」と言う見えない力が目に見える効果を発揮したと言っているのです。「信仰による励まし」が実在することが書かれています。

「信仰」と言いますと、眉唾物の様に見えたり聞こえたりしますが、「信仰」を「信頼」や「信用」に置き換えて考えてみれば分かり易いでしょう。私は信徒時代の職業人時代には、一番重要なことはその人が「信頼」出来るか「信用」出来るのかと言う一点に掛かっていました。約束を守る、期限を守る、時間を守ることは、「信用・信頼」の最低必須要件であります。

(5)そして、隠れているもう一つのキーワードは「愛」です。パウロは新約聖書のコリント前書13章(新約317頁)で「愛」について述べています(13章4節～13節)。〔愛は忍耐強い…真実を喜ぶ…すべてを信じ…すべてに耐える。愛は決して滅びない…信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。〕教会とは、この世の中で生きる考え方と神の国で生きる考え方の中継地点にあります。私たちは神の国の言葉を身に受けてこそ、この世の中で生きることが出来るのです。

テモテはテサロニケ教会の人たちに再会し、神のために共に働く喜び、共同して行動することの大切さ、苦楽を共にして働いたことをパウロに報告しています。その報告を聞いたパウロの感想が9節10節に書かれています。〔(3:9)わたしたちは、神の御前で、あなたがたのことで喜びにあふれています。この大きな喜びに対して、どのような感謝を神にささげたらよいでしょうか。(3:10)顔を合わせて、あなたがたの信仰に必要なものを補いたいと、夜も昼も切に祈っています。〕ここには、「聞く喜び」と「祈る喜び」が書かれています。「行なう喜び」や「見る喜び」とは異なる「聞く喜び」があるのです。クリスマスを前にしたアドベントのこの時期は主の誕生を待ち望む、主の誕生の声を聞く喜びが私たちの心の中に充実して参ります。

11節～13節には、パウロの祈りが書かれています。11節には、テサロニケ教会に人々との再会を願う祈りです。12節には、主の愛の広がりが見られています。13節には、イエス・キリストが再び来られること、再臨により神の国が実現することを伝えています。私たちの願いは、この世での幸福が最終的な望みではなく、13節に書かれている様に「神の御前で、聖なる、非のうちどころのない者として」この世を生きることにあります。待降節(アドベント)とはそのために毎年毎年行なう準備であると言えます。

先日、12月2日のO・Kさんの葬儀で、Kさんの愛唱聖句が披露されました。詩編119編105節です。〔あなたの御言葉は、わたしの道の光、わたしの歩みを照らす灯。〕Kさんの一生は戦前戦中戦後と苦難の道を歩まれましたが、御言葉に支えられて、神に感謝をささげてこられた人生であったことでしょう。

私たちに良いお手本を示して下さいました。ありがとうございます。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちはあなたの御恵みによって生かされていることに感謝いたします。人生の辛い日々にも、安らかな時にもあなたに向かって祈ることが出来ます様にお支え下さい。

アドベントの期間を私たちは過ごしています。主の誕生を心静かに待ち望んでいます。

神が創造されましたこの地球上に生きる一人一人に平安・平和・希望が与えられますように。食べ物が乏しい人々に、災害や戦争の只中にある一人一人に慰めがありますように、お守りください。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安がありますように。

天に召されましたO・Kさんに主の平安がありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン